

シンビジウム
Cymbidium
(ラン科)

樹の上で育つ着生ラン。鉢ものはお歳暮用として11～12月に集中するが、切り花は1年中流通する。そのうち11～5月は国産、6～10月はニュージーランドからの輸入である。花の大きさに大輪(花径10cm)、中輪(同8cm)、小輪(同7cm)に分かれる。中大輪では1花茎に10輪以上の小花がつき、花茎長は30～45cm。花は蜜でべとべとする。水あげがよく、日持ちはよいが、小花の老化が進行すると落花する。後処理剤の効果はほとんどない。

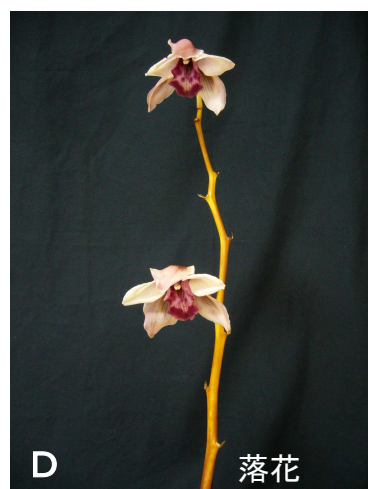
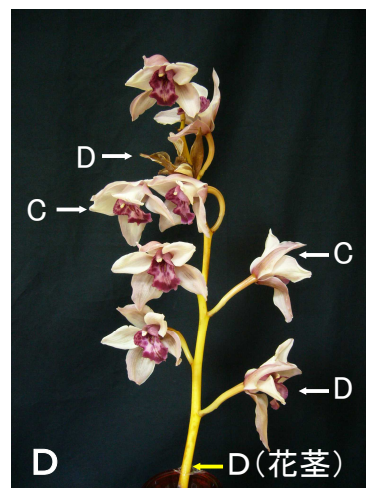
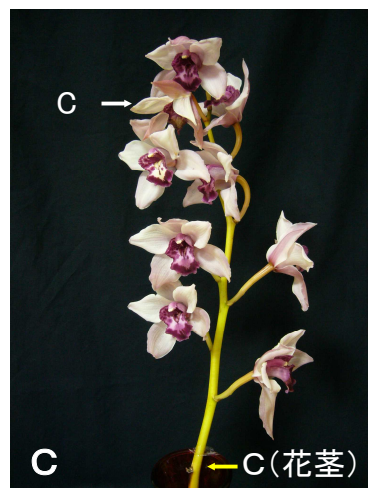
1) 品質評価基準

項 目	判 定 基 準	備 考
小花の老化	A: 花弁が硬く、張りがあり、外側へそっている B: 花弁の先がやや内巻きになる C: 花弁がやや張りを失い、変色し、内巻きになる D: 花弁が変色し、傘をたたんだように内巻きになる。進行すると落花する。	花序の老化の判定に用い、日持ち終了判定には用いない。
花序の老化	A: C、Dの小花がない C: 小花1輪がCまたはD D: 小花2輪以上がD	「小花の老化」を参考に、CまたはD判定の小花数を調査し、D判定の小花2輪以上で日持ち終了とする。
花茎・花梗の変色	A: 緑色 B: 緑色が淡くなる C: 薄緑～黄色 D: 黄色～あめ色	花序の老化とほぼ連動する。
その他		

2) 留意点

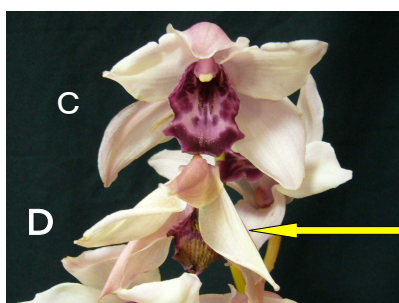
- ・後処理剤の効果は小さい。
- ・1花序につく小花数は大輪系が少なく、小輪系が多いが、いずれも小花2輪以上がDに判定された時点で日持ちの終了とする。

3) 開花



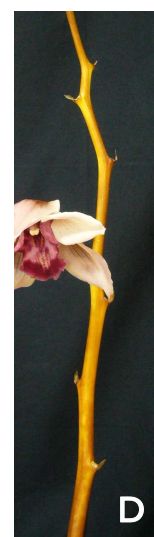
4) チェック事項

小花の萎凋・枯死



花弁が折りたたまれる

花茎・花梗の変色



緑色

緑色が淡くなる

緑～黄

黄～あめ色

あめ色